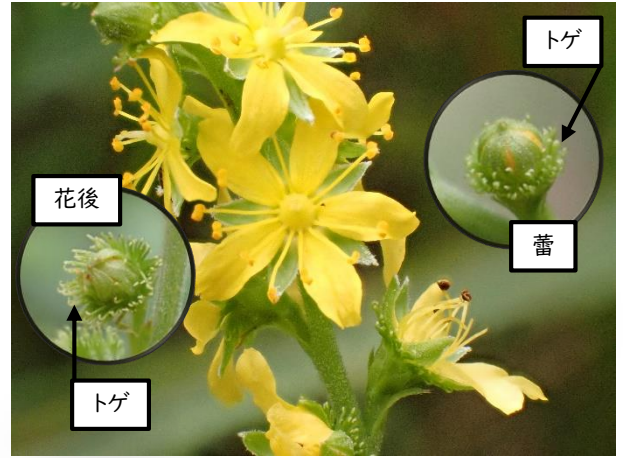


植物多様性センターの「キンミズヒキ」

キンミズヒキはバラ科の多年草です。総状花序で下側から順に咲いていくので、蕾が開花してから実になるまでの様子をよく観察することができます。萼片(がくへん)の外側には小さな鉤状のトゲが生えています。花が終わると萼片が閉じてしまい、一見蕾のような形になりますが、トゲは蕾の時より伸びています。タネになるとそのトゲが硬くなり、服などにくっつきます。人にくっついて移動するので、学習園内のあちらこちらでキンミズヒキの花が見られます。



花序: 総状に小さな黄色い花がやや密につく。



花の大きさは8~10mmで雄しべの数は8~14個。



葉: 奇数羽状複葉で互生する。小葉の大きさが不ぞろい。



果実: 動物の体に付いて運ばれる「ひっつき虫」のひとつ。